

林内に侵入してきている竹を伐採して作った「バンブー  
スライダー」。子どもたちに大人気



3. 木工クラフト教室の開催  
山の恵みである木の枝や木の実

催しています。  
を使った木工クラフト教室を、元の緑の少年団が集まる交流会や夏休みの工作教室等で実施しています。特にトンボ、カブト虫、カマキリといったちよつと細かい作業のあるものが人気です。

4. 森の健康診断  
愛知県の矢作川水系森林ボランティア協議会が行っている「森の健康診断」を、河北潟流域の森林において実施しています。森の現状を知り、今後の森林整備に役立てようと、会員が現地で講習を受けたものです。

5. イベント等への参加  
津幡町にある「石川県森林公園」は、森林公園としては本州最大級の面積を誇ります。ここにはキャンプ場などの森林レクリエーション施設が整備され、毎年「昭

和の日」に県内の緑の少年団が一同に集まって「県民みどりの祭典」が開催されています。当会では、不要な侵入竹を使った「バンブースライダー」(滑り台)の設置や模擬店出店に協力しています。また、毎年秋に開催される「県農林漁業まつり」では、地元産シイタケを豊富に使った「もりもり焼き」や、津幡町特産の「マコモ」入りの焼きそば等の販売を行っています。

このほかにも、森林ボランティアと協力して行う竹林整備や、地域材や間伐材を有効利用した製品の製作等、非常に幅広い活動を行っています。

今後の目標は、引き続き当研究会でならでの活動を継続していくことです。さらには、会員の高



津幡町地内の人工林で行った「森の健康診断」。下層植生の出現種数の調査風景

齢化に伴って活動をマンネリ化させないため、サラリーマン林家を取り込んだイベント等を企画して会の活性化を図ることで、会員増を目指したいと考えています。  
(県央農林総合事務所  
主幹 間明弘光)



河北郡林業研究会の皆さん。「森の健康診断」の参加者とともに

WE LOVE forest!  
林業研究グループ

# 河北郡林業研究会

石川県河北郡津幡町字加賀爪ハ117番地 (金沢森林組合津幡支所内)

会員数 22名 (男性17名女性5名)  
設立年月日 昭和43年6月23日

■シイタケ栽培の研究会が始まり  
河北郡林業研究会が活動している石川県かほく市及び河北郡津幡町は、能登半島の付け根に位置しています。この地域の森林面積は約8300haで、人工林率は43%と県平均の39%を上回っている林業地です。特に、津幡町と富山県の県境に近い大海川上流に位置する河合谷地区で生産される「河合谷スギ」は、県の優良品種として県内に広く植林されています。

このような恵まれた環境を活動フィールドにして当会は、昭和43年、郡内の中山間地に住む林業後継者やシイタケ、樹苗生産者が組織するグループを統合して、一つの研究会にしたのが始まりです。発足当初は会員数12名で、シイタケ生産者が主体となり、シイタケ栽培技術の向上を目的にした多種多様な研究活動を行っていました。しかし、時代の流れとともにシイタケ生産者も減少しており、現在は会員22名が、地域に密着したボランティアを中心に様々な活動に取り組んで成果を上げています。

■森を身近に感じてもらう多彩なメニューを実践  
当研究会は、発足当初から「夢があり、楽しみがあり、遊び心がある」をモットーに活動していましたが、これは組織の活性化を図るため、誰もが気楽に会に参加できるような環境作りを目指しているからです。それでは、これまで会が行ってきた具体的な取り組みについてご紹介します。



小中校生を対象とした森林林業教室。コナラ等広葉樹の植栽を体験

1. 森林整備活動  
小学校の学校林において、間伐・枝打ち等の森林整備活動をしたり、学校林内に階段作りをするなど、積極的に森林に関する学校行事に協力しています。

2. 森林林業教室の開催  
小中高校生を対象に、間伐作業の実演と間伐材の利用方法について、会員が講師となり研修会を開